

第 42 回米子市水道事業審議会 会議録

○開催日時 令和 8 年 8 月 28 日（金） 午後 1 時 30 分から

○開催場所 米子市上下水道局 大会議室（3 階）

○出席者

委員(敬称略・順不同)

稲田 祐二、伊藤 徹、大山 亜紀子、川口 真弓、木村 泰之祐、島津 志朗、
清水 香代子、成瀬 以久、新田 ひとみ（欠席者 田中 俊行、祝部 大輔）

米子市上下水道局

下関上下水道事業管理者、岡田副局長兼総務課長、結城副局長兼水道管路維持課長、
林副局長兼営業課長、山崎副局長兼下水道整備課長、横木経営企画課長、山田浄水
課長、山本水質管理課長、長澤水道設計監理課長、濱田給排水課長、和田副技術監
兼計画推進担当課長補佐、足立営業課料金担当課長補佐、羽柴経営企画課長補佐兼
財務担当課長補佐、山内経営企画課長補佐兼経営戦略担当課長補佐、濱田経営企画
課係長、村瀬経営企画課係長、高塚経営企画課係長
（事務局）白須総務課総務担当課長補佐、森井総務課係長、長谷川総務課主任

○日程

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 管理者あいさつ
- 4 報告事項 令和 7 年度米子市水道事業会計決算について（資料 1）
- 5 諮問
- 6 議題 米子市水道事業に係る料金水準及び料金体系について（資料 2-1～2-5）
- 7 事務連絡
- 8 閉会

○公開又は非公開の別
公開

○傍聴者数（報道関係を除く）
1 名

○問い合わせ先
米子市上下水道局総務課 総務担当
電話 0859-32-6112

4 報告事項

令和7年度米子市水道事業会計決算について（資料1）

説明：事務局

（以下質疑応答）

【委員】（資料10ページ）管路に関わる事業費について表の1番目と2番目で、延長69メートルに対して7,700万円、199メートルに対して1,200万円となっているが、延長と事業費が比例していないのは何故か。

【事務局】 工法の違いが一番大きな要因となっている。推進工法と開削工法があり、推進工法は円形の大きな筒を下ろし、そこに穴を開けて、地中を横に掘っていく工法であるが、円形の筒が、完全な鉄の製品で、高価なものになる。ただ、地上を掘らないので、交通の支障にならないというようなメリットもあるため、こういった工法を選択することもある。

【委員】 上から穴を開けて工事する場合と、横に入っていく工法があるということか。問題ない時には開削して安い工法で、何か支障が有る時は推進工法を選択している、という理解でよろしいか。

【事務局】 そのとおり。

【委員】（資料9ページ）耐震化率のところで、数値が横ばいだったということだが、来年度以降大きく上昇すると理解してよろしいか。

【事務局】 耐震化率について現在、基幹管路更新事業が継続しており、完成が令和13年度を見込んでいる。その時に初めて古い管から新しい管へ切り替える。現在は分母が二重に計上されている状況のため、耐震化率が中々上がらないが、令和13年には、切り替えによる古い管の廃止に伴い分母が減ることで、耐震化率が上がる。

【委員】 わかりました。

【委員】 （資料4ページ（2））給水収益の前年度比について、令和2年はコロナの

影響で減少していることがわかる。令和2年から令和4年まで、傾向にばらつきがありどう捉えたらよいか分からないため説明していただきたい。

【事務局】 【一般用】については、給水人口の減少や節水型の社会が進んでいるため、基本的に減少していく。ただ、コロナ禍の初年度については、不要不急の外出規制があり、ずっと家にいる方が多かったため、【営業】の分が一気に一般家庭に回ったところが大きく見えたというところ。【営業】や【工場】は、1件あたりの使用水量が多いため、同じ水量の変化でも単価が高いことから差が出てくる。

【委員】 令和3年と4年の動向がばらつきあったため疑問に思った。令和5年以降がコロナ明けということで、説明もわかるが、今後、令和6年、7年となったら、動きがバラバラで、何が原因なのか見通しづらい。

【事務局】 【その他】で大きく括っているものが、学校、工場、官公署等であるが、コロナ禍で生活様式が変わり、学校についてもプールの使用中止など色々な要因があって増減している。【営業】については、インバウンドの影響も大きく出ているため、今後の収支が中々読めないところもあり、これまでの実績だけではなく色々考慮しつつ収支見通しを続けていきたい。

【委員】 災害も含めてほんの少しの事象でも、水というものにすごく反映されるということが良く分かった。

【委員】 数値の増減だけでグラフになっているが、【一般】の用途割合だとか、【営業】の割合の推移などを見てみたい。

【事務局】 【その他】の枠の中身など、もう少しわかりやすく整理し、お示しいと思う。

【委員】 そうしましたら、この内容はこれくらいで、続いて、諮問の方に入る。

管理者から会長へ諮問書の提出

【事務局】 諮問書。米子市水道事業審議会条例第2条の規定に基づき、今後の本市の水道料金水準及び料金体系について諮問する。

【委員】 管理者から、水道料金水準及び料金体系についての諮問をお受けした。市民の代表に立ってこの審議会で、忌憚のないご意見等いただきながら、しっかり今後審議を進めてまいりたい。それでは 6 議題について事務局の方から説明をお願いします。

【事務局】 まず最初に私の方から、諮問にあたり一言述べさせていただきたい。ご存知の通り水道事業は、市民生活や社会経済活動を支える公共性、公益性の非常に高い事業であり、また重要なライフラインでもあり社会インフラでもある。本市においては、大正15年の事業開始以来、今日まで安全安心な水の安定供給に努めてきた。しかしながら、令和7年度決算を反映した最新の中期財政見通しでは、経営努力だけでは、その差を吸収しきれず、令和10年度に単年度赤字が、また令和12年度には繰越利益剰余金が枯渇する見込みとなった。これを受け、将来にわたって水道事業の安定した事業運営を行っていくため、適正な料金水準と料金体系について、ご審議をお願いしたい。中身の詳細については、担当者から説明する。

6 議題

米子市水道事業に係る料金水準及び料金体系について 説明：事務局

資料：米子市水道事業の現状と課題について（資料2-1）、米子市水道ビジョン2025（概要版）（資料2-2）、諮問書（資料2-3）、料金改定の経緯（資料2-4）、水道料金改定審議スケジュール（案）（資料2-5）

（以下質疑応答）

【事務局】 営業委託等による人員削減という形で努力もされてきている。今回見る中で一番気になるのは技術職員の確保をどうやっていくのか。技術職員が減ってき

ている現状も含めて、今後どのように対応していくのか。もう一点は一般家庭の口径は 13 ミリで、それ以外の基本料金どのような基準になっているのか。

【事務局】 施設の維持管理や管路の耐震化にかかる設計監督の職員等、そういった技術者については、今後も維持できるように、人員体制は考えている。方法としては、退職者を新規採用職員で賄っていこうと考えているが、なかなか全員補充するのも難しい。募集しても応募がないというところが多くある。その要因として上下水道局が何をしているのか分からない部分が多かったと考えられるため、対策として、大学や短大に出前授業を実施し、生徒に仕事の中身について PR をしている。同時に、就職担当の先生にも話をしている。その結果、市役所より上下水道の方がいいという生徒さんも数多くいるという話を伺った。今後もそのような PR をしつつ、新規採用職員を多く採用していきたいと考えている。加えて、技術力の高い職員については、65 歳以上の雇用についても考慮しつつ技術力の低下が起きないように進めていこうと考えている。

【事務局】 メーター口径がどれに当たるのかということについて、一般家庭は 13 ミリのメーターがついている場合が多い。ただ、屋敷が大きくて蛇口の数が多い場合には 20 ミリのメーターが必要な場合もある。まれに昔、工場等が建っていた所にそのまま住んでおられるケースもあるが、新築の家庭は 13 ミリが付いている場合がほとんどである。

【委員】 わかりました。

【委員】 （資料 2-1 14 ページ）人件費のところを見ると 1 億 4700 万で固定の金額となっている。今後この程度の人件費を毎年見込んでいるということか。

【事務局】 14 ページの表の資本的収支の人件費について、これは建設改良に伴う職員であり、例えば水道管を布設替する時の設計や監督業務に携わる職員の人件費を記載している。これがトータルの人件費ということではなく、資本的収支の中に支出する職員の人件費をここに記載している。

【委員】 これ以外の人件費と料金改定との関係はあるのか。

【事務局】 将来的にどれぐらいの支出がかかるかを考慮し、料金改定率を算出する。例えば、日本水道協会が3～5年を料金算定期間とする指針を出している。13ページ、14ページの表において、将来的な料金算定期間の人件費をトータルとして記載している。

【委員】 一定の率や見通しの率はあるということによろしいか。

【事務局】 そのとおり。人員の将来見通しや、賃金も上昇傾向のため、数パーセントの上積みを盛り込んでいる。

【事務局】 補足として、昨年度作成した際、ベースアップ1%程度で見ていたが、人事院勧告は3.5%程度の伸びとなっているため、次回作成時は2%程度の上昇を考慮していきたい。

【委員】 ナフサ不足等の影響も踏まえて次回作成するのか。

【事務局】 物価上昇による支出の増加、それとは逆にスペックダウンやダウンサイジングによって経費を下げられるところ、また人員適正化計画に基づく人員数などを基に再度作成していく。

【委員】 よろしく願います。

【委員】 基本水量を松江、鳥取のように将来的に0とするのか。

【事務局】 公衆衛生の観点から導入された制度であり、全国的な傾向として解消している。この件については次回以降の審議会においてお諮りしていきたい。

【委員】 スキルを持った民間人材の中途採用はあるのか。

【事務局】 社会人卒の採用がある。

【委員】 資料にある人件費の件は再度計算して出すということによろしいか。

【事務局】 資料の数字は、あくまで水道ビジョンの検討の時の数字のため、今後直近の数字にブラッシュアップして検討を進めていきたい。

【委員】 経費は色々なところで努力していて、もうこれ以上やりようがないかと思う。あと考えられるのが人件費で、例えばAI やドローンを使っていく想定があるのか、もう既に使っているということがあるのか。

【事務局】 AI について、生成 AI 等は米子市役所も含めて上下水道局も日常的に使えるような体制を構築してきているところであり、ドローンについても数年前に購入し、職員が自ら水管橋の点検を行うように進めている。今後AI を使って自動診断などが可能になるとさらに DX 化が進むものと見ているが、今現在は職員の目視の補完という形でドローンを使って点検を行っている。

【委員】 AI の導入により技術の低下を招かないよう対応をお願いします。

【委員】 （資料 2-1 7 ページ）水道料金の比較に日野郡が乗っていないのは何故か。

【事務局】 この表は上水道を比較しており、日野郡の 3 町は簡易水道のため、あえてここには比較として乗せていない。

.....

7 事務連絡

【事務局】 次回の審議会は来月 9 月 30 日水曜日午後 1 時半から行う。内容は、米子市水道事業収支の見通しと料金改定率の説明を予定している。次回から、本日お諮りした米子市水道事業に係る料金水準及び料金体系について、具体的な審議に入る。委員の皆様にはそれぞれの立場から忌憚のないご意見をお願いします。